

ZEPHYROS

ゼフェロス No.32

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



《不安》1894年 油彩・カンヴァス オスロ市立ムンク美術館
©Munch Museum,Oslo

ムンク展 Edvard Munch : The Decorative Projects

会期: 2007年10月6日(土)～2008年1月6日(日)

主催: 国立西洋美術館／東京新聞

ノルウェーの画家エドヴァルド・ムンクは、日本でも非常に人気のある画家のひとりです。すでに数多くの展覧会が日本でも開かれ、彼の作品に表わされた「人間の魂の叫び」とも呼べる主題を、愛、死、不安、絶望といった心理的な諸テーマによって捉えようとしてきました。しかし、彼が「生命のフリーズ」という壮大なプロジェクトによって達成しようとしていたことは、これらのテーマからだけでは捉えきることができないものです。なかでも最も見過ごされてきたのが、その「装飾性」です。今回の展覧会は、ムンクの作品における「装飾」という問題に光を当てる世界でも初めての試みとなります。

ムンク、「装飾」への挑戦

ムンクは、自らが描いた作品のなかでもその核となる一連の作品を〈生命のフリーズ〉と名づけました。それは、個々の作品をひとつずつ独立した作品として鑑賞するのではなく、全体でひとつの作品として見る必要があると考えたからでした。それは、まさにオーケストラの奏でる交響曲のようなもので、それぞれの楽器のパートの演奏がひとつにまとめられたときに初めて、作品として完成するものでした。

そのような絵画による交響曲を、ムンクは時に作曲家として、時に指揮者として作り上げようとしています。作曲家としては作品を次々と描き、指揮者としては、それらをどのように「フリーズ」としてひとつにまとめあげるのかに腐心しています。ムンクのアトリエを撮影した写真には、売却することなく手元に残しておいた作品を、さまざまに組み合わせ、並べ替えていった様子を確認することができます。整然と作品が並べられた四方の壁は、彼が装飾的な壁画プロジェクトを構想していたことをはっきりと示しています。

〈生命のフリーズ〉をもとに壁画を制作する試みは、ムンクのパトロンであったリュウベック（ドイツ）の眼科医マックス・リンデが、1904年に自邸の子ども部屋の装飾をムンクに依頼したのが最初のものとなりました。しかし、リンデは、そこに描かれた主題が、あまり子どもにふさわしくないという理由で受け取りを拒否してしまいます。1906年には、ベルリンの演劇人マックス・ラインハルトが自らの小劇場の待合室の壁画をムンクに描かせます。実際には、これが〈生命のフリーズ〉が装飾プロジェクトとして実現した最初のものとなりました。

その後ムンクは、オスロ大学講堂の壁画を描き、これが彼の最も有名な装飾プロジェクトとなっています。さらに晩年には、建設予定のあったオスロ市庁舎の壁画も担当することとなりましたが、残念ながら市庁舎そのものの建設が遅れ、この装飾プロジェクトが完成することはありませんでした。

これらのプロジェクトを紹介しながら、「装飾」をめぐるムンクの長年にわたる探求の軌跡をたどっていくことを本展は目指しています。

（武蔵野美術大学准教授 田中 正之）



《マドンナ》1895年 リトグラフ
オスロ市立ムンク美術館
©Munch Museum,Oslo

◆「ムンク展」観覧料

一般	1,400円 (1,000円)
大学生	1,000円 (600円)
高校生	800円 (500円)
中学生以下	無 料

※ ()内は20名以上の団体割引料金



《生命のダンス》
1925-29年
油彩・カンヴァス
オスロ市立ムンク美術館
©Munch Museum,Oslo

FUN DAY 2007を終えて

the national museum of western art, tokyo



当日受付と「びじゅつーる」の貸出の様子

去る5月12日(土)、13日(日)、国立西洋美術館初の試みとなる「FUN DAY 2007」が開催されました。子どもから大人まで、国立西洋美術館にまずは足を運んでいただくこと、コレクションや活動をより多くの方に知っていただくことを目的に、常設展を楽しむためのプログラムを用意し、全館を無料開放しました。当日は、入場券がわりのバッジと、「謎ときスタンプラリー」のスタンプが押せる布製バッグを来館者に差し上げました。

FUN DAYで行ったプログラムは、「びじゅつーる」の貸し出し、西洋美術館ボランティア・スタッフと一緒に作品を見ていく「ギャラリー・トーク」、ル・コルビュジエのデザインをめぐる「建築ツアー」、作品に関するクイズを解いてバッグにスタンプを押していく「謎ときスタンプラリー」、銅版画制作のプロセスを見せる「ひみつの版画工房～みる・きく・かぐ・さわる～」、そして前庭の《地獄の門》の前での「あおぞらコンサート」です。

西洋美術館ボランティア・スタッフ、臨時ボランティアのみなさんにスタッフとしてご協力いただき、二日間で約8300名の来館者を迎えることができました。来館者からは「これまで通り過ぎていた美術館に入るきっかけとなった」、「作品をじっくりと見る良い機会となった」などの感想が多く寄せられました。今後も国立西洋美術館により多くの方に親しんでいただく活動を行いたいと考えています。

(研究員 横山 佐紀)



「謎ときスタンプラリー」の様子
 “どんなオリジナルバッグが
 出来るかな?”

2006年度新収蔵作品

the national museum of western art, tokyo



ジャン=ヴィクトール・ベルタン《イタリア風景》
1812年 油彩・カンヴァス 75×109cm

ベルタン(1767-1842)はパリの職人の家に生まれ、1793年に画家としてサロン(官展)デビューします。このとき自らヴァランシエンヌの弟子と称していますが、ヴァランシエンヌは後に風景画論『画家のための実用遠近法提要』を発表し、同時代の風景画史において先駆的な役割を果たした画家です。他方で歴史的風景画という分野を公的に位置づけることに貢献した画家ミシャロンや、自然主義風景画を代表する画家コローの師としても知られるベルタンは、近代につながるフランス風景画史の流れに重要な跡を残しているといえるでしょう。

《イタリア風景》と《ギリシアの風景》はともに1812年の年記があり、サイズ、構図などの共通性から2点一組で描かれたと考えられます。ベルタンが実際にイタリアやギリシアを旅行したかどうかはわかっていません。しかしある時期からイタリアを主題とした風景画を多く描いていることから、ベルタンはヴァランシエンヌに倣いイタリアを訪れ、そこで描いたスケッチをもとに、帰国後多数の風景画を制作したとされています。しかし観察に基づいた即興的な風景描写を行ったヴァランシエンヌと異なり、ベルタンはここに見られるように古代のモチーフをとり入れ、秩序に基づいた構図や端正な仕上げを重視しています。柔らかな光を感じさせる木々や遠景の山の穏やかな表現、均衡のとれた人物の配置や構図が、ベルタンの新古典主義的な特徴をよく示しています。

(主任研究員 大屋 美那)

◆常設展観覧料

一般	420円 (210円)
大学生	130円 (70円)
高校生	70円 (40円)
中学生以下	無料

※ ()内は20名以上の団体割引料金

ジャン=ヴィクトール・ベルタン
《ギリシアの風景》
1812年
油彩・カンヴァス
75×109cm



「ムンク展」に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆記念講演会

- ① 10月6日(土) 14:00～15:30 **9月22日締切**
 ゲルド・ヴォル (オスロ市立ムンク美術館シニア・キュレーター)
 「〈いまや労働の時代だ〉、ムンク晩年のモニュメンタル・プロジェクト」
- ② 11月10日(土) 14:00～15:30 **10月27日締切**
 毛利三彌 (成城大学教授)
 「絵の中の劇、劇の中の絵—ムンクとイブセン」
- ③ 12月8日(土) 14:00～15:30 **11月24日締切**
 田中正之 (武蔵野美術大学准教授)
 「装飾プロジェクトとしての〈生命のフリーズ〉」

会場	国立西洋美術館講堂
定員	各回145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)
応募方法	往復はがきに、氏名(1枚につき1名様限り)、住所(返信にも)、電話番号、希望日(1枚につき1講演のみ)をご記入の上、下記の宛先までお申し込みください(締切日の消印有効)。 * 応募者多数の場合は抽選になります。
宛先	〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館「ムンク展」講演会係

◆スライドトーク

当展覧会の見どころやおもな作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日に講堂でスライドを使って解説を行います。

日時	10月12日(金)、10月26日(金)、11月9日(金)、11月30日(金)、 12月14日(金) 毎回18:00～(約40分)
会場	国立西洋美術館講堂
定員	先着145名(展覧会観覧券が必要です)。 * 直接講堂にお越しください。

◆映画上映会

「ムンク 愛のレクイエム」1976年、2時間50分
 ムンクの「日記」をもとに、彼の作品に影響を与えた家族、女性との関係などをドキュメンタリー・タッチで描いた作品。登場するムンクの代表的作品についても、制作のプロセスがじっくりと描写されています。

日時	10月20日(土) 13:00～16:00 12月1日(土) 13:00～16:00
会場	国立西洋美術館講堂
定員	先着145名(展覧会観覧券が必要です)。 * 直接講堂にお越しください。

*詳細については、追って当館ホームページ等でご案内します。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2007年8月～2008年1月

●全館休館のお知らせ●

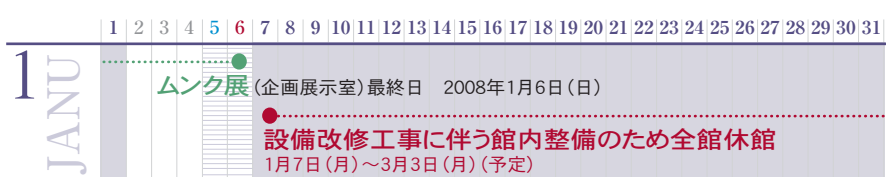
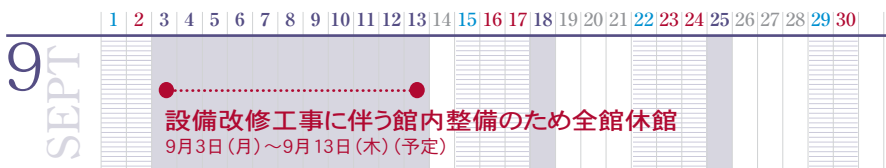
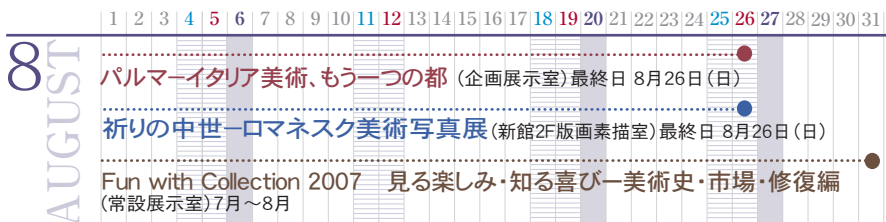
新館設備改修工事に伴う館内整備のため、2007年9月3日から9月13日、2008年1月7日から3月3日(予定)の期間、全館休館いたします。

●常設展示室一部閉館についてのお知らせ●

新館設備改修工事のため、2007年9月から2009年3月(予定)の期間、常設展示室を一部閉館(本館のみ開館)いたします。(一部閉館に伴い展示内容がかわります。)

新館設備改修工事に伴い、来館者の皆様にはご不便、ご迷惑をお掛けいたしますこと、心よりお詫び申し上げます。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

■ 休館日 ■■■ 土日・祝日



※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

●お知らせ●

7月3日からチケット売場、館内施設(常設ミュージアムショップ、カフェ「すいれん」)でSuicaがご利用いただけるようになりました。また、各種クレジットカードもご利用いただけます。(ただし、一部除外品がございます。) 詳細については、当館ホームページをご覧ください。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
通常…午前9時30分～午後5時30分(ただし、秋の企画展開会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中＝午前9時30分～午後5時)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
*入館は閉館の30分前まで
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日、昭和の日(4月29日)、文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

* 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色さまざまな花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第32号

編集・発行 国立西洋美術館/平成19年8月20日(年4回発行)
協力(財)西洋美術振興財団
印刷 (株)アイネット